三木金物産業史と黒田清右衛門家

令和元年10月
三木市立みき歴史資料館

凡例

1　本書は、令和元年 10 月 26 日（土）から 12 月 22 日（日）まで三木市立みき歴史資料館で開催される企画展「三木金物産業史と黒田清右衛門家」に際して作成した解説図録です。

2　本書の構成と掲載した資料の写真は基本的には展示構成に従っていますが、必ずしも一致しているとは限りません。また本書の掲載資料が展示資料のすべてではありません。ご了承ください。

3　本書において資料名の下に示しているラインは、赤色が現物資料、青色が写真資料であることを示しています。

4　本書の執筆・編集は、小川浩功（当館学芸員）が担当しました。

ごあいさつ

三木の中心地である「三木町」は、豊臣秀吉の地子免許（じしめんきょ）を認める制札を根拠に商業の町として発展してきました。18 世紀中ごろから大工道具を中心とした鍛冶職人仲間が組織され、後期には鍛冶道具の販売を専門に行う仲買問屋（なかがいどんや）が成立しました。この金物仲買問屋によって大坂や江戸への販路が確立し、三木金物の名が全国へ知れわたるようになりました。

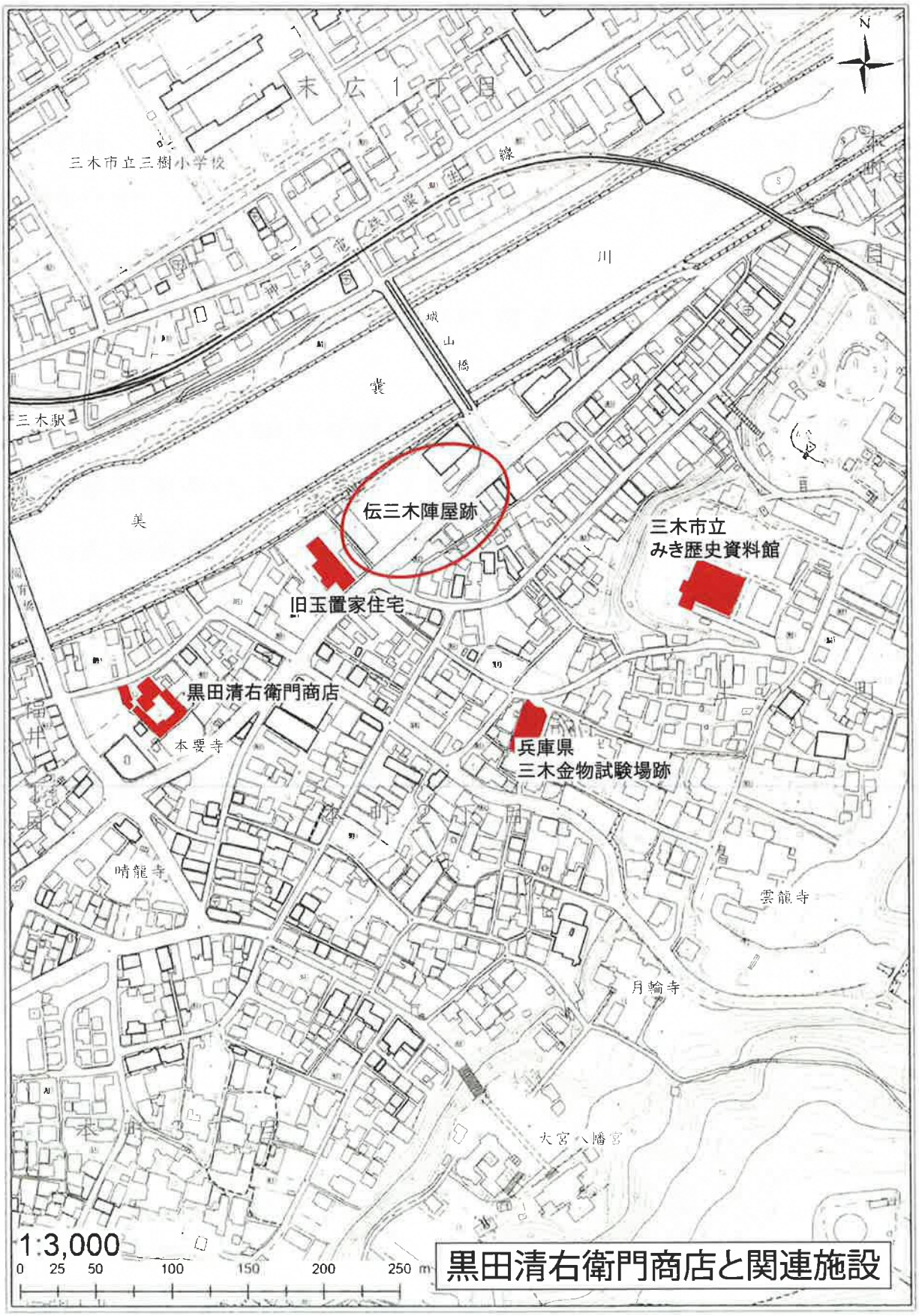
黒田清右衛門（くろだせいうえもん）商店は、三木金物仲買問屋の中で最も古くに成立し、現在まで営業を続けている唯一の金物問屋です。黒田清右衛門家は、三木金物仲買問屋として販路拡大に努めただけでなく、金物の町三木の発展にも尽力してきました。三木金物産業の歴史を語る上で、黒田清右衛門家の果たしてきた役割は欠かせません。

そこで本企画展では、黒田清右衛門家に残された数ある史料の中から金物産業の歴史を紹介します。

令和元年 10 月

みき歴史資料館館長

地図


N
末広1丁目
三木市立三樹小学校
川
城山橋
三木駅
伝三木陣屋跡
三木市立
みき歴史資料館
旧玉置家住宅
黒田清右衛門商店
本要寺
兵庫県
三木金物試験場跡
晴龍寺
雲龍寺
月輪寺
大宮八幡宮
1:3,000
0 25 50 100 150 200 250 m
黒田清右衛門商店と関連施設

1　近世三木の金物産業史

三木町（みきまち）は戦国時代に別所氏の城下町として成立したとされています。天正6年（1578）3月から同8年1月までに及ぶ三木合戦で織田信長方に敗れた別所長治が自刃しますが、合戦で荒廃した町の復興を意図して羽柴秀吉が地子免許・諸役免除の特権を認める制札を出します。三木町はこの特権を根拠に町場を維持し、以後地域経済の中心地としての役割を担い続けました。

その後、三木城主は変遷していき、慶長5年（1600）、池田輝政の姫路入封に伴い池田氏領の支城となり、家老の伊木（いぎ）氏が入城しました。しかし三木城は元和元年（1615）、一国一城令の城わりの対象となりました。元和3年には池田氏が転封、小笠原氏が明石に入部し三木町を支配します。三木の侍屋敷には小笠原家臣団が入居していましたが、元和6年には明石へ移住しました。これにより三木町は城下町から在郷町（ざいごうまち）（代官・郡奉行が支配する農村部に成立した商工業者が集住する地域）へ転換しました。

幕藩制下の三木町は幕府直轄領・大名8家10藩の私領と、領主がめまぐるしく変遷しました。私領となった場合でも姫路藩領期（慶長5年から元和3年）、元和3年から同7年までの明石藩領期、天保13年（1842）以後の明石藩領期以外はすべて飛び地領で、そのためか領主権力からの規制はゆるやかでした。このことが町の発展に繋がったと考えられます。

三木町は地域経済の中心地として役割を担いましたが、18世紀半ばまでは商工業がそれほど盛んではありませんでした。しかし、18世紀中後期には大工道具を中心とする金物業が勃興します。金物業の発展に伴い、生産とは別に流通・販売を生業とする仲買問屋を開業する家が三木町に現れ、製造と販売の分業化が進んでいきます。宝暦末年（1763年頃）には山田屋伊右衛門ら3軒が前挽鋸（まえびきのこ）職人として開業、宝暦末年に道具屋善七（井上家）、明和2年（1765）に作屋清右衛門（黒田家）が金物仲買問屋を開業します。こうした分業制の進展によって三木金物は大坂市場へ進出し、享和4年（1804）には江戸市場との直接取引が始まります。三木金物職人・仲買問屋の連携により三木金物は特産品としての地位を確立し、三木は金物の町と呼ばれるようになりました。

1　出情鑑達書

年代：嘉永７年（1854）
所蔵：黒田清右衛門家

５代目清右衛門が作成した黒田家の来歴を記す帳面です。黒田家は本家に作屋仁左衛門（のち作屋清兵衛）・枡屋市左衛門・松屋太兵衛の３家があり、初代清右衛門は枡屋の家に４男として生まれました。

その後清右衛門は作屋清兵衛の娘おはつと結婚、明和元年（1764）に作屋清兵衛の養子となり、翌年に家屋敷を分与され分家しました。

2　道具屋善七差入証文

年代：寛政４年（1792）
所蔵：黒田清右衛門家

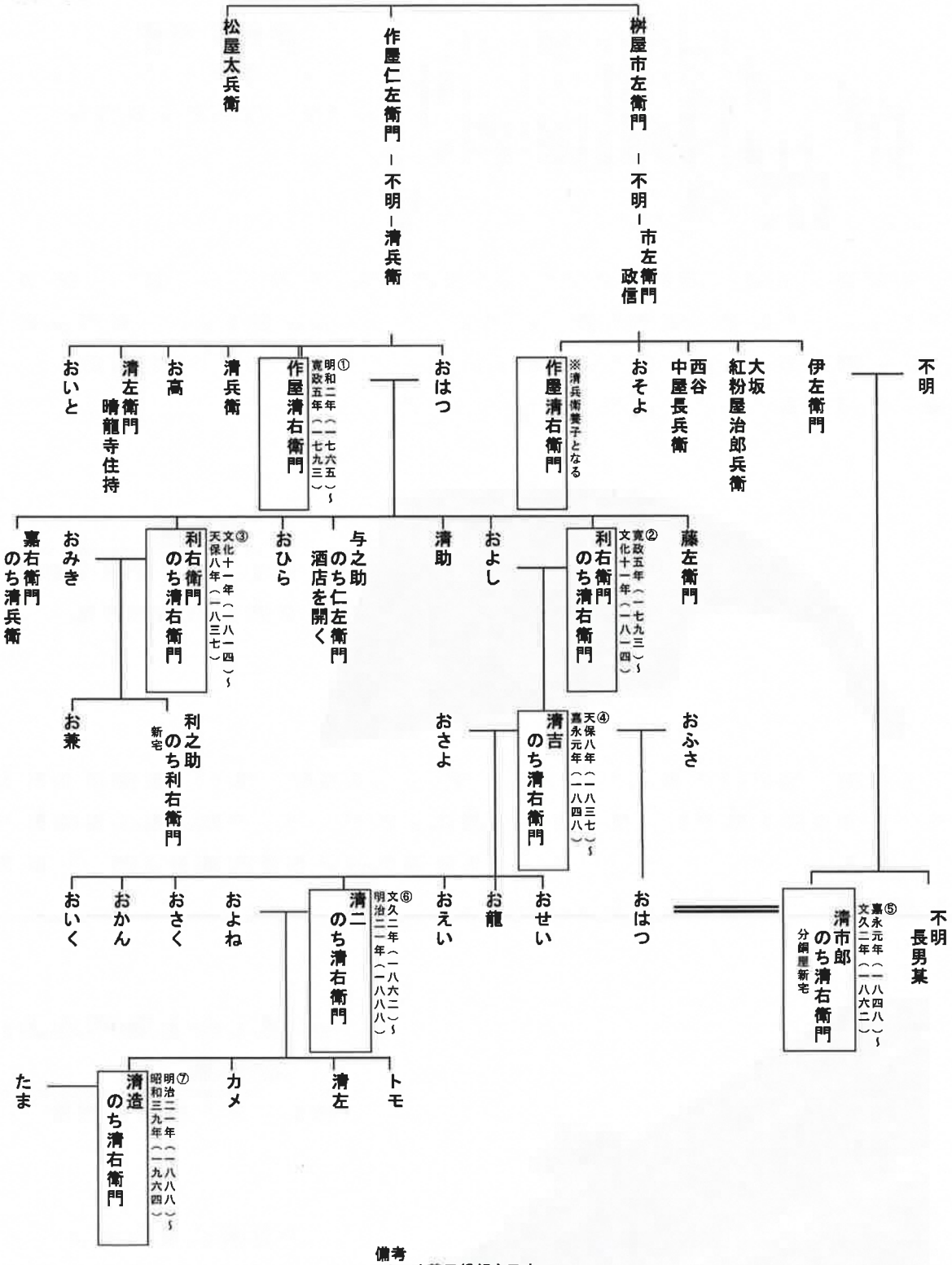
寛政４年 10 月、井上善七から三木金物仲買問屋仲間に提出された金物販売に関する協定書です。この協定の成立により、三木金物は仲買問屋仲間を通じて大坂や各地へ販売されることとなります。

8　（現在の）黒田清右衛門商店

撮影：みき歴史資料館

近世以来金物卸業を営み続ける唯一の金物問屋です。

黒田清右衛門家系図



備考
1：＝は養子縁組を示す。
2：□囲いは作屋清右衛門家当主を示す。
3：○数字は作屋清右衛門家の代数、年次は当主在任期間を示す。
出典
桑田優『伝統産業の成立と発展　播州三木金物の事例』を参考に作図した。

3　前挽値段書

年代：寛政 10 年（1798）
所蔵：黒田清右衛門家

前挽鋸の売値に関する協定を三木前挽鋸鍛冶仲間３軒と金物仲買問屋の井上善七・黒田清右衛門の間で結びました。三木仲買衆中・大坂問屋衆中・江戸表問屋衆中への売値が定められており、この頃には三木前挽鋸が江戸市場へ直接販売されていたことが分かります。

10　前挽鋸

撮影：みき歴史資料館
所蔵：金物資料館

前挽鋸の製造は宝暦末年（1763 年頃）、山田屋伊右衛門・前挽屋五郎右衛門・大坂屋権右衛門の３軒によって開始されました。当初京都前挽鋸鍛冶仲間に加入していましたが、やがて三木前挽鋸は京都前挽鋸を圧倒し、前挽鋸の特産地として知られるようになります。

9　黒田清右衛門商店の前挽鋸

撮影：みき歴史資料館

黒田清右衛門商店では三木金物のシンボルとして前挽鋸が屋根に飾られています。

4　仲買仲間・鍛冶仲間取替証文扣

年代：享和４年（1804）

所蔵：黒田清右衛門家

享和４年、江戸打物問屋炭屋七左衛門から三木金物仲買問屋仲間に金物の売買取引が持ちかけられました。三木鋸鍛冶仲間は製品の価格下落を恐れ、江戸市場との取引は１軒で行うよう仲買問屋らに要求します。

仲買問屋らは、商品は定価で販売すること、職人らへ鉄鋼を安く売ること、格別の疵（不良品）がない限り価格引き下げはしないなどを改めて約束し、この件は落着します。

5　鋸鍛冶仲間扣

年代：文化２年（1805）

所蔵：黒田清右衛門家

文化２年３月に改められた帳面で、三木金物仲買問屋と鋸鍛冶職人との取決めや江戸打物問屋との書簡のやり取りなどを控えています。

文化２年３月 26 日、江戸打物問屋仲間から三木金物仲買問屋仲間・鋸鍛冶仲間に対し、寛政３年（1791）以来大工道具打物問屋組合を結成しているので今後は仲間外の問屋に金物を出荷しないようにと通達が出されます。

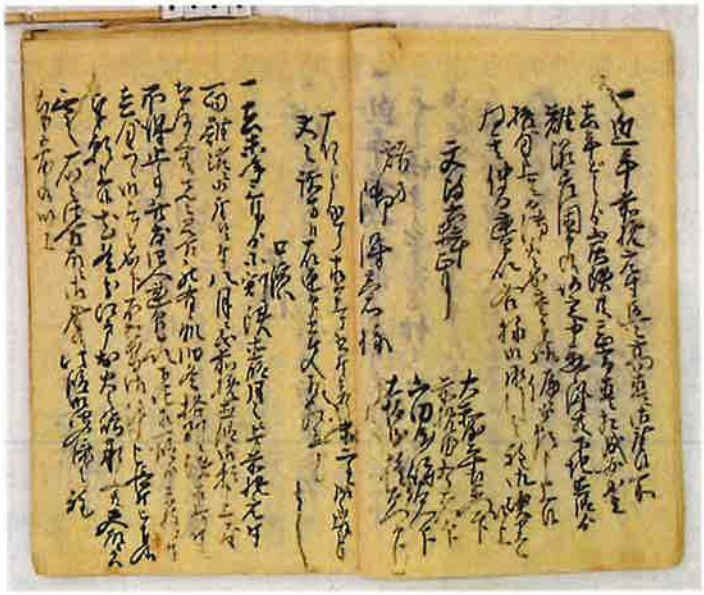
6　道具屋善七取替証文

年代：享和４年（1804）

所蔵：黒田清右衛門家

江戸との取引について道具屋善七・黒田清右衛門の間で取り交わした証文です。

商品の値段を間違えないこと、炭屋七左衛門より受けた注文は両名で等分に分けて運送すること、不正を働かないことを互いに約束しました。



7　前挽職方扣

年代：文化２年（1805）

所蔵：黒田清右衛門家

前挽鋸鍛冶仲間と三木・大坂・京都・江戸の問屋間のやり取りをまとめた帳面で、弘化２年（1845）まで書き継がれています。

文政から天保期にかけて鉄や炭が高騰したため、この時期三木の金物産業は不況に陥ります。文政６年（1823）正月には山田屋伊右衛門ら前挽鋸職人４軒が前挽鋸の値上げを諸国の問屋に訴えるほどでした。

2 三木町と切手会所

延享３年（1746）、上州館林藩越智松平氏は播州美嚢郡・加東郡領内２万石の飛び地領を支配します。この飛び地領支配の中核となったのが三木町で、延享４年に陣屋が設けられます。館林藩による支配は天保 13 年（1842）まで続き、この間に特産品としての三木金物は隆盛し、大坂・江戸市場を中心に全国へ流通していきます。

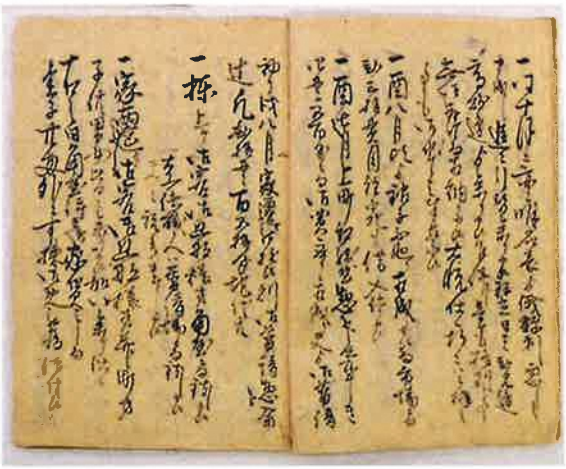
館林藩は金物の町として繁栄した三木町に注目し、文政６年（1823）、三木中町角屋伊兵衛の借宅に切手会所を設立します。この頃、館林藩は財政難に直面しており、切手札を発行し金や銀と交換することで藩財政の立て直しを図ろうとしました。

切手会所の運営は三木の有力町人黒田清右衛門・福田屋八郎兵衛・山田屋弥兵衛に委ねられ、越智松平氏の領地替が行われるまで運営されます。切手会所には莫大な運営資金が必要であり、有力町人の資力が求められました。

14 旧玉置家住宅

撮影：みき歴史資料館

文政９年（1826）、上町紅粉屋惣五郎の屋敷を買い取り、中町角屋宅から切手会所を移転します。明治初期、玉置大器が切手会所の屋敷・敷地を買い取り、玉置家住宅となりました。



15 御切手御会所扣

年代：文政 13 年（1830）

所蔵：黒田清右衛門家

文政 13 年８月に作成された切手会所に関する控えの帳面です。切手会所仕法書・会所日記などがまとめられています。

切手会所は黒田清右衛門ら三木町の有力町人のほか、加東郡市場村の豪農近藤家や大坂両替商鴻池重太郎らの協力も得ながら運営されました。

18 播州三木預り切手（館林藩）

所蔵：黒田清右衛門家

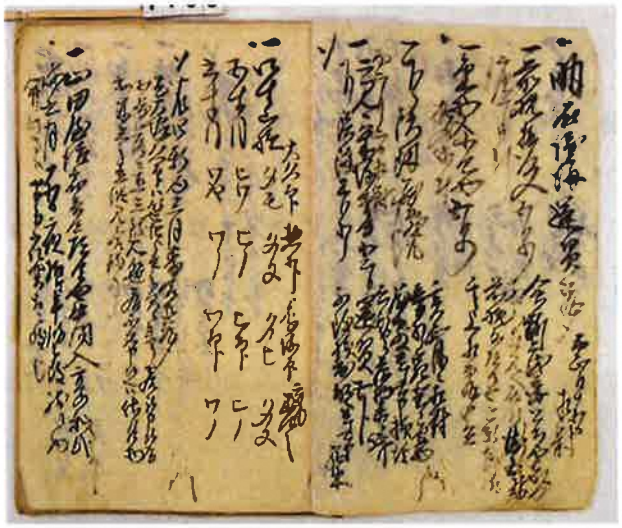
三木切手札は吉川や有馬、明石では悪評が立つ有様でしたが、館林藩飛び地領及びその周辺の交通・商品流通の要所や大坂などで流通しました。

三木切手会所より発行された切手札及びその発行額一覧

時期区分	運営主体	切手札	発行額
第1期（文政6年8月～）	三木陣屋詰の役人	25匁・5匁・1匁・3分・2分札	874貫460匁4分
第2期（文政7年5月～）	黒田清右衛門・福田屋八郎兵衛・山田屋弥兵		不明
第3期（文政10年10月～）	飛び地領内の大庄屋・惣年寄たち	上記に加え10匁札	1582貫32匁9分
第4期（文政12年12月～）	第2期の3人と木梨村大熊市右衛門	上記の25匁・10匁札が廃止	不明

（桑田優『伝統産業の成立と発展　播州三木金物の事例』を参考に作成）

3　三木金物の運送と鉄鋼の仕入れ



19 職方諸事扣
年代：寛政 13 年（1801）
所蔵：黒田清右衛門家

寛政 13 年から享和 4 年（1804）までの黒田清右衛門らと職方で交わした取決めを書き記した帳面です。

享和元年、三木金物仲買問屋仲間と前挽鋸鍛冶仲間、明石渡海船問屋の間で金物・鉄鋼の運送料が決められました。

11 金物の荷出し風景
年代：明治 30 年（1897）
所蔵：黒田清右衛門家

黒田清右衛門商店前で金物の荷出しを行っています。当時は金物を荷車に積んで牛馬に曳かせて明石まで運んだと言われています。そこから船に積み込んで大阪方面へ送り届けました。

22 駄賃帳

年代：文久２年（1862）
所蔵：黒田清右衛門家

明石郡二見村の渡海船問屋三木屋弥兵衛が運送した金物や鉄鋼などの荷物及びその駄賃を書き上げた帳面です。

鉄鋼は大坂の鉄問屋から仕入れていましたが、これらは明石渡海船によって明石まで運び込まれ、牛馬によって三木へ届けられました。

23 鉄鋼仕切書覚

年代：慶応元年（1865）
所蔵：黒田清右衛門家

大坂鉄問屋鉄屋奇（喜ヵ）兵衛から送られてきた鉄鋼類の請求書です。「出羽鋼（いずわ）」（石見国産）・「伯耆鋼」と記されており、三木では山陰地方の鉄鋼類を大坂経由で仕入れていたことが分かります。

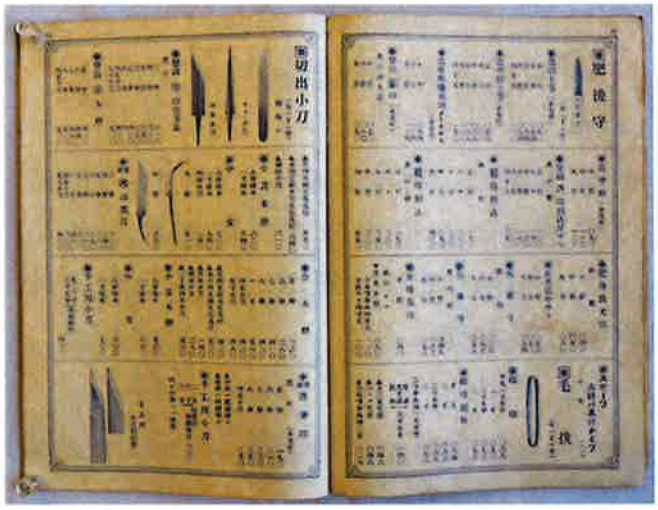
20 三木飛脚仲間侘証文

年代：天保４年（1833）
所蔵：黒田清右衛門家

三木の飛脚は仲買問屋らと諸国取引先との間で交わされる商品の受注、代金の送付、小荷物の運送などを担っており、この頃には不正を働く飛脚が問題となっていました。

三木飛脚仲間のいせや嘉兵衛ら３軒が職人からの荷物を直接大坂へ送るといった不正を働かないことを約束しています。

4　黒田清右衛門商店と大工道具類



24 黒田金物商報 第参拾号

年代：大正年間ヵ - 1912～1926 -
所蔵：黒田清右衛門家

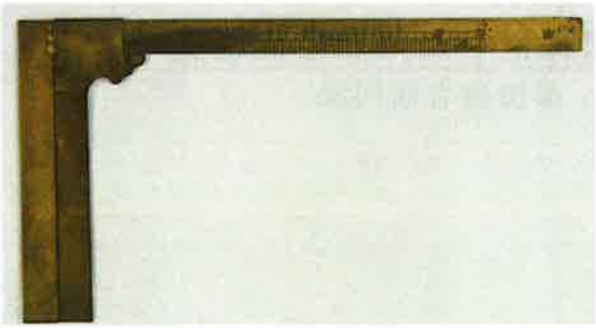
冒頭６頁で黒田清右衛門商店の概要説明、以降で商品カタログを掲載しています。鋸や鑿、鉋といった三木を代表する大工道具のほか、鋏や剃刀など日用品の金物まで 76 頁に渡って紹介しています。

25 和鋏

所蔵：黒田清右衛門家

27 肥後守

所蔵：黒田清右衛門家



31 スコヤ

所蔵：黒田清右衛門家

33 三木仲間鑑札

年代：明治元年（1868）

所蔵：黒田清右衛門家

慶応４年（９月、明治に改元）５月、「商法大意」の布達により従来の株仲間制度が改められました。同年12月、新政府から三木に仲間鑑札が下付されました。

34 金物仲買中印鑑

所蔵：黒田清右衛門家

35 黒田清右衛門商店商品ラベル

所蔵：黒田清右衛門家

5 近代三木の金物産業史

明治維新に伴う社会変動や西洋の文化・技術の流入により、三木金物産業にも大きな変革が起こります。

三木金物は明治13年（1880）には製造家400戸余り、職工は1000人を数えるほどでしたが、明治19年には半減したと言われます。衰退の原因に、三木では洋鋼（ようこう）・洋鉄（ようてつ）をいち早く導入しますが、従来の生産方法では品質の劣化を招くという問題がありました。また、明治5年には株仲間が解散したため、新規市場参入者が増加しました。粗悪品の製造といった不正行為の横行、あるいは旧株仲間による新規事業者への売買妨害といった行為により市場が混乱していたことも金物業低迷の理由として考えられます。

金物業低迷を受け、三木金物問屋・職人たちは連携して技術革新に努め、洋鋼・洋鉄を使用しても従来の品質と変わらない金物の製造に成功します。また明治16年に鋸目立組合、明治42年に三木金物販売同業組合といった職人組合、問屋組合が設立されました。特に三木金物販売同業組合では粗製品濫造の防止や製品の品質向上のほか、国内外の金物産業視察といった取組が行われていました。このような取組が実を結び、明治初め頃には苦境に立たされていた三木金物も明治中後期には盛り返しました。

同業組合の設立には、政府の殖産興業・貿易政策が大きく関わりました。製品の品質・製造技術の向上、それに伴う海外市場への進出が当時の重要な課題でした。三木でも内国勧業博覧会・明治40年の京城（けいじょう）（現ソウル）博覧会などに金物を出品し、国内外で三木金物を宣伝します。また7代目黒田清右衛門らを代表とする明治45年の満州（まんしゅう）・朝鮮視察、大正4年(1915)の中国山東省（さんとうしょう）視察など、海外市場視察も行われました。大正年間には第一次世界大戦による特需でショベル・スコップが爆発的に売れるなど、戦争を契機に海外市場の開拓が進みます。海外市場の比重は年々大きくなり、昭和15年(1940)には三木金物の生産額のうち約半分が輸出されるほどでした。

昭和前期には戦局の悪化に伴う経済統制が敷かれ、三木金物も停滞を余儀なくされます。こうした動きをうけ、昭和18年には黒田清右衛門によって社団法人日本利器工匠具（こうしょうぐ）統制協会が設立され、国策に応じた金物製造・販売方法が模索されました。

36 鑿鍛冶職人為取換盟約書

年代：明治 14 年（1881）
所蔵：黒田清右衛門家

三木鑿鍛冶職人らと仲買問屋らで取り交わした盟約書です。同様に鋸・鉋鍛冶職人とも盟約を取り交わしました。

12 ヵ条からなり、不法者らとの取引や西洋鋼・鉄の使用など三木金物の品質・信用低下を招く行為を禁じています。

57 第一回内国勧業博覧会 褒賞薦告

年代：明治 10 年（1877）
所蔵：黒田清右衛門家

第一回内国勧業博覧会は出品者 1 万 6,000 人、会期 102 日間で入場者 45 万人でした。

この時、黒田清右衛門が出品した打刃物の品質が認められ、鳳紋賞を受賞しました。

※内国勧業博覧会とは

大久保利通の内務省が主導して内国勧業博覧会を開催しました。大久保は万物を集め、質の良否を検討する場として博覧会を位置づけ、これに職人は奮起し、商人は販路交易の途を開くことに繋がると考えていました。そのため従来の「見世物」としてのイメージを否定し、産業奨励の場であることを強調するべく「勧業」の名称を付しました。

内国勧業博覧会は明治 10 年から明治 36 年まで計 5 回開催されました。

37 第一回内国勧業博覧会
賜賞記念の版木（左）
38 黒田清右衛門絵付印影
（右）

年代：明治 10 年（1877）
所蔵：黒田清右衛門家

内国博で二等賞受賞が内定したことを記念して作られました。当初褒賞は名誉・一等級・二等級・三等級・褒状の等級が定められていましたが、授与式前日の 11 月 19 日に急遽廃止され、「龍紋・鳳紋・花紋」の賞牌のみとなりました。

42 第四回内国博出品ニ付解説書写
（出品人黒田清右衛門）

年代：明治 28 年（1895）
所蔵：黒田清右衛門家

出品した曲尺に関する解説書で、番号・物名・出品人・製造地・素質・製造用品・製造法・製造機械・製造人名・効用・産出品高総計が記されています。

59　7代目黒田清右衛門

所蔵：黒田清右衛門家

44　黒田清右衛門商店取締規程

年代：明治23年ヵ（1890）

所蔵：黒田清右衛門家

明治23年頃から黒田清右衛門商店の改革が行われます。7代目黒田清右衛門が幼年であることや将来の営利事業拡張のため、事務規定や台所改革法、後見人制度などが整備されました。

商店取締規程では、清右衛門商店取締、管店（支店）取締、帳簿整理、報酬金貯蓄法について29ヵ条が定められました。

45 履歴書

年代：戦後以降

所蔵：黒田清右衛門家

７代目黒田清右衛門が記した、自身の履歴です。学歴・主たる現職・事業及び団体経歴・特記事項をまとめています。

７代目黒田清右衛門は、三木町長・兵庫県会議員などを歴任したほか、同業組合の設立や運営・海外市場の視察・金物試験場の整備などに積極的に協力し、金物の町三木の発展に尽力しました。

戦前頃までの７代目黒田清右衛門略歴（『履歴書』を元に作成）

年号	西暦	経歴
明治18	1885	2月26日、6代目清右衛門の次男として生まれる。
明治21	1888	10月25日、6代目清右衛門死亡により3歳で襲名する。
明治34	1901	兵庫県立神戸商業学校に入学する。
明治38	1905	3月28日、兵庫県立神戸商業学校を卒業する。
明治42～大正2	1909～13	三木金物販売同業組合評議員を務める。
明治44	1911	播磨度器製作株式会社（のち日本度器株式会社）を設立する。
明治45	1912	兵庫県嘱託満鮮金物需用状況視察員として満州・朝鮮に赴く。
大正2～10	1913～21	三木町会議員を務める。
大正2～10	1913～21	三木金物販売同業副組合長を務める。
大正8～12	1919～23	兵庫県美嚢郡会議員及び議長を務める。
大正9～15	1920～26	兵庫県度量衡営業組合長を務める。
大正10～15	1921～26	三木金物販売同業組合組合長を務める。
大正14～昭和6	1925～31	三木町長を務める。
大正15～昭和20	1926～45	日本度量衡協会兵庫県支部長を務める。
昭和6～22	1931～47	兵庫県会議員を務める。
昭和17～24	1942～49	兵庫県利器工業組合理事長を務める。
昭和17～23	1942～48	兵庫県貿易審議会評議員を務める。
昭和18～25	1943～50	兵庫県度量衡器・計量器商業統制組合及び協同組合理事長を務める。
昭和19～25	1944～50	兵庫県価格査定委員及び理事を務める。
昭和19～23	1944～48	兵庫県利器工匠具工業施設組合理事長・兵庫県工業協同組合理事長を務める。
昭和19～23	1944～48	三木金物配給株式会社取締役社長を務める。
昭和19～22	1944～47	日本利器工匠具統制組合理事長を務める。

46 播磨度器製作株式会社定款

年代：明治 44 年（1911）

所蔵：黒田清右衛門家

明治 44 年２月、黒田清右衛門が６軒あった曲尺鍛冶を集めて播磨度器製作株式会社を設立しました。

黒田清右衛門・井筒亀吉・古川福松・岡本幾松・黒田元次郎によって、40 条からなる定款が定められました。

61 播磨度器製作株式会社設立記念

年代：明治 44 年（1911）

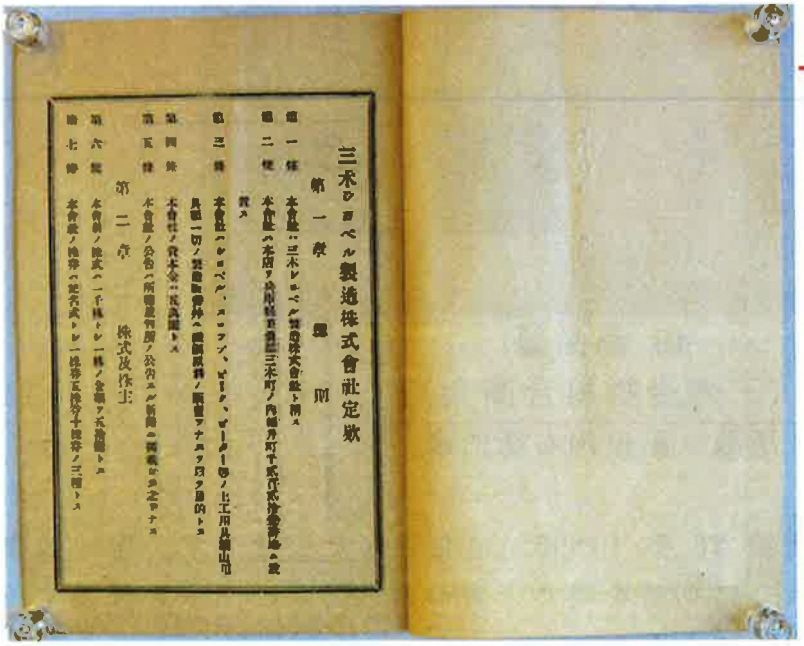
所蔵：黒田清右衛門家

会社設立を祝して、同年５月に大宮八幡宮境内で記念撮影をしました。76 人の職工が働いていたと言われています。

62 播磨度器製作株式会社

年代：明治 44 年（1911）～大正 10 年（1921）
所蔵：黒田清右衛門家

現在の三木市福井１丁目で営業していました。



三木ショベル製造株式會社定款

第一章　總則

第一條　本會社ハ三木ショベル製造株式會社ト稱ス

第二條　本會社ハ本店ヲ兵庫縣三木町ノ內福井町字武佐谷番地ニ設ク

第三條　本會社ハショベル、スコップ、ピック、ピーポー等ノ土工用具製造並一切ノ鐵物販賣外ニ鐵鋼或鐵ノ販賣ヲナスヲ以テ目的トス

第四條　本會社ノ資本金ハ拾萬圓トス

第五條　本會社ノ公告ハ所轄裁判所ノ公告スル新聞ニ掲載ヲ以テスル

第二章　株式及株主

第六條　本會社ノ株式ハ一千株トシ一株ノ金額ヲ五拾圓トス

第七條　本會社ノ株券ハ記名式トシ一株券五株分以上四株券ノ三種トス

47 三木ショベル製造株式会社定款

年代：大正３年（1914）
所蔵：黒田清右衛門家

大正３年３月、黒田清右衛門らによって開業、８章 51 条からなる定款を定めました。

この時期、炭鉱開発や第一次世界大戦における軍隊のショベル需要が高まりつつありました。

48 商品カタログ（三木ショベル製造株式会社）

所蔵：黒田清右衛門家

三木ショベル製造株式会社が発行した商品カタログです。

等級を示すラベルやショベルが紹介されています。

49 商品録（三木金物組合商会）

所蔵：黒田清右衛門家

三木金物組合商会は、明治 28 年（1895）に発足した会社です。第一次世界大戦の戦争特需により大いに利益を得たと言われ、当時の三木を代表するスコップ・ショベル製造会社でした。

昭和 3 年（1928）、社名を地球ライオンショベル株式会社と改めます。

50 三木金物販売同業組合定款

年代：大正 10 年（1921）改正

所蔵：黒田清右衛門家

明治 42 年(1909)、金物販売業者の組合である三木金物販売同業組合が設立されました。

定款は 13 章 65 条からなり、「製品改良に務め声価を博する事」「粗製乱造を防止する事」「販売拡張のため各地に視察員を派遣する事」などが定められています。

52 満鮮視察復命書

年代：明治 45 年（1912）

所蔵：黒田清右衛門家

三木金物販売同業組合副組合長井筒亀吉・評議員黒田清右衛門が満州・朝鮮における打刃物需要視察に向かいました。

朝鮮における打刃物需要の高まりや、満州では中国・ドイツ製打刃物が浸透していることを報告しています。

53 北陸視察概要

年代：昭和２年（1927）

所蔵：黒田清右衛門家

昭和２年、三木町長黒田清右衛門らが金物産業の盛んな新潟県三條町・燕町、福井県武生町を視察しました。

三木町と比べ金物工場の設備や当局者の奨励方法、製造者の方針などが優れており、三木町でもこれらを見習い、製造方法の改良及び工費の節減に取り組んでいく必要があると結論づけます。

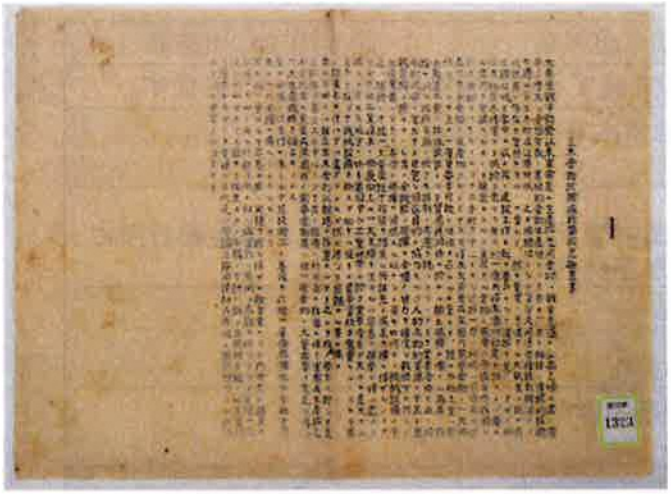
65 兵庫県立金物工業試験場三木分場

年代：昭和６年（1931）

所蔵：黒田清右衛門家

大正８年（1919）７月に三木町福井1279番地に開設しました。

写真の２年後には兵庫県三木金物試験場として独立します。



54 三木金物試験場新築拡充趣意書

年代：昭和 17 年ヵ（1942）
所蔵：黒田清右衛門家

昭和 17 年、軍需及び一般金物の需要を満たすため、三木金物試験場の拡充を目指しました。

しかし、戦局の悪化により計画はとん挫し、戦後にようやく実行されます。

55 社団法人日本利器工匠具統制協会要項

年代：昭和 18 年（1943）
所蔵：黒田清右衛門家

戦局の悪化に伴い経済統制が強化され、資材の確保や金物の販売が困難になります。この問題に対処するべく昭和 18 年、黒田清右衛門が中心となり設立しました。

関係法規を業界内に徹底させること、業界内の実情を政府に伝達、製品の規格数量などの調査・計画・統制指導、製品の需給状況の調査・配当割当・生産並びに配給機構の整備などが主な事業でした。

近世三木金物産業史の年表

年号	西暦	三木金物に関わる主な出来事	同年の主な出来事
天正8	1580	羽柴秀吉が三木町の諸役を免ずる制札を掲げ、町民の帰住を促す。	
慶長5	1600	姫路城主池田輝政の家老伊木清兵衛忠次が三木町を支配する。	関ヶ原の合戦。
延宝6	1678	延宝の検地。 三木町でも検地が実施、岡村源兵衛・大西与三右衛門が勘定奉行所に愁訴、翌年三木十ヶ町の地子免許が許される。	
宝永4	1707	黒田直邦、三木領主となる。 黒田屋市左衛門・仁左衛門・太兵衛が枡屋・作屋・松屋と屋号を改める。	宝永地震。
享保20	1735	初代黒田清右衛門、枡屋市左衛門家に生まれる。	
寛保2	1742	鍛冶屋が十二軒あったことが確認される。	公事方御定書を定める。
延享3	1746	上州館林藩松平武元が三木町の領主となる。	
宝暦11	1761	山田屋伊右衛門、前挽鍛冶開業を再度願い出る。	
宝暦末	1763頃	道具屋太兵衛(初代井上善七)が金物仲買問屋を創業、三木前挽鋸鍛冶仲間が成立する。	
明和2	1765	作屋清右衛門(初代黒田清右衛門)が金物仲買問屋を創業する。	
明和7	1770	貝屋清七が三木川通船(三木町—高砂間)を始める。	
天明3	1783	大坂文珠四郎鍛冶仲間の訴えで、三木町鋸鍛冶が差し止められる。	浅間山噴火。
天明4	1784	三木町鋸鍛冶七軒が大坂文珠四郎鍛冶仲間に加入する。	大坂の廿四組江戸積問屋株を公認する。
寛政4	1792	三木金物仲買問屋仲間が結成される。	ロシア使節ラクスマン、根室に来航し通商を求める。
享和元	1801	明石渡海船問屋との間で鉄や金物の運賃を決める。	
文化元(享和4)	1804	黒田清右衛門・井上善七の2軒が江戸積問屋となり、江戸と直接取引を開始する。	ロシア使節ニコライ・レザノフ、長崎に来航し通商を求める。
文政6	1823	三木町切手会所が設立される。	
天保3	1832	三木金物の江戸専売制が決定するも不発に終わる。	
天保7	1836	領主松平斉厚(武厚)が石州浜田城に転封を命じられる。	
天保12	1841	天保の改革、株仲間が停止となる。	
嘉永4	1851	江戸十組問屋ほか株仲間の再興が許される。江戸打物問屋仲間から三木金物仲買問屋仲間へ仲間再興を伝える。	
慶応4	1868	明治と改元。	

永島福太郎編『三木金物問屋史料』などを参考。

近代三木金物産業史の年表

年号	西暦	三木金物に関わる主な出来事	同年の主な出来事
明治元（慶応4）	1868	5月、商法大意発布。 9月、明治と改元。	
明治5	1872	株仲間の解散が命じられる。	
明治10	1877	第一回内国勧業博覧会。	
明治13	1880	三木で洋板鋼の使用が始まる。	国会期成同盟結成。
明治16	1883	鋸目立組合が結成される。	
明治23	1890	このころ、黒田清右衛門商店の改革が行われる。	第三回内国勧業博覧会。
明治27	1894	日清戦争が起こる。	
明治37	1904	日露戦争が起こる。	
明治39	1906	肥後守ナイフの製造が始まる。	
明治42	1909	三木金物販売同業組合が設立される。	伊藤博文暗殺。
明治44	1911	播磨度器株式会社が設立される。 このころ、兵庫県度量衡検定所三木支所が設置される。	関税自主権確立。
大正元（明治45）	1912	黒田清右衛門らが満州・朝鮮の金物市場視察を行う。	第一次護憲運動。
大正3	1914	三木ショベル製造株式会社が設立される。	第一次世界大戦が起こる。
大正4	1915	黒田清右衛門、中国山東省へ視察に赴く。	日本、中華民国に対華21ヶ条を要求。
大正8	1919	兵庫県立金物工業試験場三木分場が業務を開始する。	パリ講和会議。 朝鮮半島で三・一運動起こる。
昭和2	1927	三木町長黒田清右衛門らが北陸の金物生産地視察を行う。	金融恐慌が起こる。
昭和6	1931	満州事変が起こる。	
昭和8	1933	県立金物工業試験場三木分場が兵庫県三木金物試験場として独立する。	日本、国際連盟を脱退する。
昭和10	1935	三木上の丸に金物神社が創祀される。	
昭和12	1937	日中戦争が起こる。	
昭和14	1939	三木金物卸商業組合が設立される。	第二次世界大戦が起こる。
昭和16	1941	4月、生活必需物資統制令が公布される。 12月、太平洋戦争が起こる。	
昭和18	1943	三木金物販売同業組合が解散。 社団法人日本利器工匠具統制協会が設立される。 三木金物試験場、三木金物指導所と改称する。	
昭和19	1944	三木金物卸商業組合が解散。 三木金物指導所、三木金属工業指導所に改称する。	
昭和20	1945	ポツダム宣言受諾。	

桑田優『三木金物問屋史』などを参考。

出品目録

番号	資料タイトル	法量(cm)	所蔵者/撮影・提供者	点数
1	出情鑑達書	22.4×15.9	黒田清右衛門家所蔵	1
2	道具屋善七差入証文	28.2×55.6	〃	1
3	前挽値段書	28.2×61.8	〃	1
4	仲買仲間・鍛冶仲間取替証文扣	24.1×70.0	〃	1
5	鋸鍛冶仲間扣	25.0×17.8	〃	1
6	道具屋善七取替証文	31.0×31.8	〃	1
7	前挽職方扣	24.6×17.7	〃	1
8	(現在の)黒田清右衛門商店	—	みき歴史資料館撮影	1
9	黒田清右衛門商店の前挽鋸	—	〃	1
10	前挽鋸	—	金物資料館所蔵	1
11	金物の荷出し風景	—	黒田清右衛門家所蔵	1
12	石野の鍛工記念碑	—	みき歴史資料館撮影	1
13	大宮八幡宮の鉋鍛冶碑	—	〃	1
14	旧玉置家住宅	—	〃	1
15	御切手御会所扣	24.2×17.5	黒田清右衛門家所蔵	1
16	三木御役所衆触書写	31.3×75.0	〃	1
17	切手方差入証文扣	31.0×46.2	〃	1
18	播州三木預り切手(館林藩)	—	〃	4
19	職方諸事扣	24.6×17.0	〃	1
20	三木飛脚仲間侘証文	27.3×23.6	〃	1
21	大坂表へ送届諸荷物取扱ニ付証書	25.2×17.9	〃	1
22	駄賃帳	11.8×33.0	〃	1
23	鉄鋼仕切書覚	15.5×46.5	〃	1
24	黒田金物商報　第参拾号	26.5×19.2	〃	1
25	和鋏	—	〃	7
26	小刀	—	〃	8
27	肥後守	—	〃	5
28	折り畳み式ナイフ	—	〃	3
29	採果鋏	—	〃	3
30	矢立	—	〃	2
31	スコヤ	—	〃	2
32	曲尺	—	〃	1
33	三木仲間鑑札	—	〃	3
34	金物仲買中印鑑・印影	—	〃	2
35	黒田清右衛門商店商品ラベル	—	〃	35
36	鑿鍛冶職人為取換盟約書	23.5×16.7	〃	1
37	第一回内国勧業博覧会賜賞記念の版木	25.2×16.9	〃	1
38	黒田清右衛門絵付印影	27.9×12.6	〃	1
39	第一回内国勧業博覧会鳳紋賞牌記念メダル	—	〃	1
40	第二回内国勧業博覧会有功賞牌記念メダル	—	〃	1

番号	資料タイトル	法量(cm)	所蔵者/撮影・提供者	点数
41	第四回内国勧業博覧会二等賞牌記念メダル	—	黒田清右衛門家所蔵	1
42	第四回内国博出品ニ付解説書写(出品人黒田清右衛門)	27.9×20.0	〃	1
43	第五回内国勧業博覧会出品ニ付解説書下書	24.3×17.0	〃	1
44	黒田清右衛門商店取締規程	24.2×16.6	〃	1
45	履歴書	27.4×20.0	〃	1
46	播磨度器製作株式会社定款	25.0×17.0	〃	1
47	三木ショベル製造株式会社定款	18.9×13.0	〃	1
48	商品カタログ(三木ショベル製造株式会社)	18.1×12.6	〃	1
49	商品録(三木金物組合商会)	18.2×12.2	〃	1
50	三木金物販売同業組合定款	18.9×12.8	〃	1
51	三木金物卸商業組合定款	24.3×16.7	〃	1
52	満鮮視察復命書	24.5×17.2	〃	1
53	北陸視察概要	24.4×16.7	〃	1
54	三木金物試験場新築拡充趣意書	24.2×16.6	〃	1
55	社団法人日本利工匠具統制協会要項	25.7×18.2	〃	1
56	ショベル・スコップ特約販売店看板	120.5×22.0	〃	1
57	第一回内国勧業博覧会褒賞薦告	38.9×54.4	〃	1
58	第五回内国勧業博覧会案内図	54.6×79.0	〃	1
59	7代目黒田清右衛門	—	〃	1
60	祖先百回忌	—	〃	1
61	播磨度器製作株式会社設立記念	—	〃	1
62	播磨度器製作株式会社	—	〃	1
63	満州・大連回行旅行記念	—	〃	1
64	満州奉天省の北陵にて記念撮影	—	〃	1
65	兵庫県立金物工業試験場三木分場	—	〃	1
66	黒田清右衛門商店店舗兼主屋外観西面	—	清水克俊氏撮影	1
67	黒田清右衛門商店店舗兼主屋表土間	—	〃	1
68	黒田清右衛門商店店舗兼主屋中ノ間	—	〃	1
69	黒田清右衛門商店店舗兼主屋二階八畳ノ間	—	〃	1
70	黒田清右衛門商店主屋座敷棟外観北面	—	〃	1
71	黒田清右衛門商店主屋座敷棟広縁より前栽を望む	—	〃	1
72	黒田清右衛門商店主屋座敷棟奥ノ間から次ノ間を見る	—	みき歴史資料館撮影	1
73	黒田清右衛門商店主屋座敷棟奥ノ間(床・付書院)	—	清水克俊氏撮影	1
74	黒田清右衛門商店味噌蔵外観西面	—	〃	1
75	黒田清右衛門商店東蔵外観西面	—	〃	1
76	黒田清右衛門商店離れ外観西南面	—	〃	1
77	黒田清右衛門商店離れ外観南面(書斎窓)	—	〃	1
78	黒田清右衛門商店離れ二階内部(床、床脇)	—	〃	1
79	黒田清右衛門商店内蔵外観東面	—	〃	1
80	黒田清右衛門商店内蔵二階内部	—	〃	1
81	黒田清右衛門商店外塀外観北面	—	〃	1

主要参考文献

小西勝治郎『播州特産金物発達誌』（工業界社、1928）
小西勝治郎『国産金物発達誌』（文書堂、1934）
小西勝治郎『三木金物誌』（三木金物誌刊行会、1948）
永島福太郎編『三木金物問屋史料』（思文閣出版、1978）
松村義臣編『ふるさとの想い出写真集　明治大正昭和　三木』（国書刊行会、1981）
桑田優『三木金物問屋史』（三木商工会議所・全三木金物卸商協同組合、1984）
國雄行『博覧会の時代　明治政府の博覧会政策』（岩田書店、2005）
桑田優『伝統産業の成立と発展播州三木金物の事例』（思文閣出版、2010）
三木市教育委員会編『三木合戦を知る』第3版（2019）
黒田（作屋）清右衛門文化財調査委員会編『黒田（作屋）清右衛門家文化財調査報告書』（三木市教育委員会、1996）

協力者一覧

本書を作成するに当たり、写真提供、掲載許可をはじめ、ご助言及びご協力を賜った皆様方のお名前を記して感謝の意を表します（敬称略）。

伊賀なほゑ　　井土恒三郎　　黒田清右衛門商店
三木市総務部市史編さん室　　三木市立金物資料館

三木金物産業史と黒田清右衛門家
令和元年10月26日発行

編集・発行　三木市立みき歴史資料館
〒673-0432
兵庫県三木市上の丸町4番5号
TEL　0794-82-5060
FAX　0794-82-5068

印刷　小野高速印刷株式会社
〒673-0933
兵庫県姫路市平野町62番地

表紙：「金物仲買中印鑑」